＜質問紙調査の結果《児童生徒質問紙と平均正答率とのクロス集計》＞

＜＜基本的な生活習慣に関する質問＞＞

■朝食を毎日食べる児童生徒の平均正答率

小学校	75.8 ポイント	中学校	41.8 ポイント
食べない児童より	0.5 ポイント 高い	食べない生徒より	7.3 ポイント 高い

■毎日、同じくらいの時刻に寝ている児童生徒の平均正答率

小学校	80.7 ポイント	中学校	42.8 ポイント
同じ時間に寝ていない児童より	22.6 ポイント 高い	同じ時間に寝ていない生徒より	7.4 ポイント 高い

■毎日、同じくらいの時刻に起きている児童生徒の平均正答率

小学校	78.1 ポイント	中学校	42.5 ポイント
同じ時間に起きていない児童より	23.8 ポイント 高い	同じ時間に起きていない生徒より	12.9 ポイント 高い

＜＜学校でのコミュニケーションに関する質問＞＞

■学校に行くのは楽しいと思う児童生徒の平均正答率

小学校	76.2 ポイント	中学校	41.5 ポイント
楽しいと思わない児童より	2.1 ポイント 高い	楽しいと思わない生徒より	3.7 ポイント 高い

＜＜学習習慣に関する質問＞＞

■自分で学び方を考え工夫している児童生徒の平均正答率

小学校	78.9 ポイント	中学校	42.3 ポイント
考え工夫していない児童より	13.4 ポイント 高い	考え工夫していない生徒より	5.4 ポイント 高い

■平日、１日１時間以上家庭で学習する児童生徒の平均正答率

小学校	77.3 ポイント	中学校	44.7 ポイント
１時間未満の児童より	2.3 ポイント 高い	１時間未満の生徒より	5.1 ポイント 高い

■家に本がある児童生徒の平均正答率

小学校	71.9 ポイント	中学校	39.3 ポイント
0～10冊未満の児童より	17.4 ポイント 低い	0～10冊未満の生徒より	10.5 ポイント 低い

＜＜学習に関する関心・意欲・態度に関する質問＞＞

■算数・数学が好きだと思う児童生徒の平均正答率

小学校	78.6 ポイント	中学校	47.5 ポイント
好きでない児童より	7.0 ポイント 高い	好きでない生徒より	11.8 ポイント 高い

■算数・数学の授業の内容がわかる児童生徒の平均正答率

小学校	80.0 ポイント	中学校	44.3 ポイント
わからないと思う児童より	23.1 ポイント 高い	わからないと思う生徒より	10.2 ポイント 高い

■算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う児童生徒の平均正答率

小学校	75.8 ポイント	中学校	44.6 ポイント
役立つと思わない児童より	0.9 ポイント 高い	役立つと思わない生徒より	10.8 ポイント 高い

■課題解決に向けて、自分で学び方を考え、工夫して取り組む児童生徒の平均正答率

小学校	78.9 ポイント	中学校	42.3 ポイント
取り組まない児童より	13.8 ポイント 高い	取り組まない生徒より	5.4 ポイント 高い

■自分の考えを発表するとき、相手に上手く伝わるよう工夫をしていると思う児童生徒の平均正答率

小学校	80.3 ポイント	中学校	45.6 ポイント
工夫しない児童より	11.1 ポイント 高い	工夫しない生徒より	15.2 ポイント 高い

■話し合う活動を通じて、考えを深めたり新たな考え方に気付くことができる児童生徒の平均正答率

小学校	79.6 ポイント	中学校	42.0 ポイント
気付かない児童より	16.2 ポイント 高い	気付かない生徒より	9.4 ポイント 高い

＜＜規範意識や自己有用感に関する質問＞＞

■自分には、よいところがあると思う児童生徒の平均正答率

小学校	76.0 ポイント	中学校	41.7 ポイント
そう思わない児童より	1.3 ポイント 高い	そう思わない生徒より	5.2 ポイント 高い

■将来の夢や目標をもっている児童生徒の平均正答率

小学校	76.9 ポイント	中学校	38.1 ポイント
もっていない児童より	7.8 ポイント 高い	もっていない生徒より	9.6 ポイント 低い

■人が困っているときに進んで助けることができる児童生徒の平均正答率

小学校	77.0 ポイント	中学校	40.0 ポイント
そう思わない児童より	9.8 ポイント 高い	そう思わない生徒より	10.4 ポイント 低い

■いじめはいけないと思う児童生徒の平均正答率

小学校	77.3 ポイント	中学校	41.6 ポイント
そう思わない児童より	52.3 ポイント 高い	そう思わない生徒より	17.2 ポイント 高い

■人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒の平均正答率

小学校	77.7 ポイント	中学校	41.1 ポイント
そう思わない児童より	22.3 ポイント 高い	そう思わない生徒より	2.7 ポイント 高い

＜＜地域・社会との関わりに関する質問＞＞

■地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う児童生徒の平均正答率

小学校	77.7 ポイント	中学校	43.1 ポイント
そう思わない児童より	22.3 ポイント 高い	そう思わない生徒より	7.9 ポイント 高い

■新聞を読んでいる児童生徒の平均正答率

小学校	94.2 ポイント	中学校	31.4 ポイント
読んでいない児童より	19.7 ポイント 高い	読んでいない生徒より	9.9 ポイント 低い

【児童生徒質問紙からの考察】

○基本的な習慣に関すること

・朝食を毎日食べて登校している児童が68.5%、生徒が71.8%と昨年より低く、全道・全国に比べても低い傾向にある。

・朝食の摂取の状況と学力の差異については、朝食を摂取している児童生徒の方が正答率が高い傾向にある。

・就寝時間や起床時間など、規則正しい生活習慣を維持している児童生徒の正答率は高い傾向にあるが、全道・全国に比べ、中学校及び義務教育学校後期では起床時間は高い傾向にあるものの、就寝時間は小学校及び義務教育学校前期課程ともに低い傾向にある。

○学校でのコミュニケーションに関すること

・友達とのコミュニケーションが良好な環境にあり、学校を楽しく感じる生徒の正答率は高い傾向にあるが、小学校及び義務教育学校前期課程においては昨年度より若干低い傾向にある。

○学習習慣に関すること

・1日１時間以上家庭で学習する児童生徒の割合は、昨年度より中学校及び義務教育学校後期は上昇したものの、全道・全国より低い傾向にある。

・普段、学校外での学習時間をしっかり確保している児童生徒の正答率は高い傾向にあるが、全国・全道に比べ学習量は非常に少ない状況にある。

○学習に対する関心・意欲に関すること

・算数・数学について、「好き」「大切」と感じている児童生徒の正答率は高い傾向にある。

・課題解決に向けて、自分で学び方を考え、工夫して取り組めた児童生徒の正答率は高い傾向にある。

・自分の考えを発表するとき、相手に上手く伝わるよう工夫をしている児童生徒の正答率は高い傾向にある。

・話し合う活動を通して、考えを深めたり広げたりできていると実感している児童生徒の正答率は高い傾向にある。

・中学校及び義務教育学校において、自分の考えをまとめ、発表・表現する場面で、PC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用したことにより、授業や学校生活では友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると回答した生徒の割合が、全道及び全国を上回ったと考えられる。

○規範意識や自己有用感に関すること

・自分にはよいところがあると思う児童生徒の正答率は高い傾向にある。

・ほとんどの児童生徒が、いじめはいけないと思ったり、人の役に立つ人間になりたいと回答している。

○地域・社会との関わりに関すること

・地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う児童生徒の正答率は高い傾向にある。

・児童生徒が新聞を目にする機会は少なくなってきているが、テレビやインターネットによりニュース の内容を知るようになってきている。

☆今後に向けて

○　自ら考え判断し、自己決定ができる児童生徒の育成につながる授業改善。

○　個々のよさや可能性を互いに認め合うことができる学級風土の醸成に向けた取組の更なる継続。

○　習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決・振り返りを充実させる深い学びの過程の実現。

〇　地域・社会との関わりをふまえた、子どもたちが課題を自分事としてとらえる学びづくり。